

iCD活用ワークショップ実施報告書

2018年度 第7期

目次

1	i コンピテンシ デイクシヨナリ活用ワークショップ実施の背景と目的	5
	i コンピテンシ デイクシヨナリ活用ワークショップ実施の背景	5
	iCD活用ワークショップの目的と期待効果	5
2	iCD活用ワークショップの実施概要	6
	ワークショップのスケジュール	6
	ワークショップの概要	6
	参加企業	9
	実施体制	10
3	ワークショップの実施内容	11
	ワークショップ 事前説明会 開催記録	11
	1. 開催日時	11
	2. 場所	11
	3. 参加者 5名 (講師・運営陣 5名を除く)	11
	4. 目的	11
	5. アジェンダ	12
	6. 概要	12
	7. 次回までの課題と期限	12
	8. 次回までの準備	12
	9. 次回開催	12

第1、2回ワークショップ 開催記録	13
1. 開催日時	13
2. 場所	13
3. 参加者 16名 (講師・運営陣 5名を除く)	13
4. 目的	13
5. アジェンダ 1日目、2日目	14
6. 概要	14
7. 次回までの課題と期限	14
8. 次回までの準備	14
9. 次回開催	14
第3回ワークショップ 開催記録	15
1. 開催日時	15
2. 場所	15
3. 参加者 18名 (講師・運営陣 7名を除く)	15
4. 目的	15
5. アジェンダ	16
6. 概要	16
7. 次回までの課題と期限	16
8. 次回までの準備	16
9. 次回開催	16
第4回ワークショップ 開催記録	17
1. 開催日時	17
2. 場所	17
3. 参加者 19名 (講師・運営陣 8名を除く)	17
4. 目的	17
5. アジェンダ	18
6. 概要	18
7. 次回までの課題と期限	18
8. 次回までの準備	18
9. 次回開催	18
第5回ワークショップ 開催記録	19
1. 開催日時	19
2. 場所	19
3. 参加者 19名 (講師・運営陣 7名を除く)	19
4. 目的	19
5. アジェンダ	20
6. 概要	20
7. 次回までの課題と期限	20
8. 次回までの準備	20
9. 次回開催	20

第6回ワークショップ 開催記録	21
1. 開催日時	21
2. 場所	21
3. 参加者 16名 (講師・運営陣 4名を除く)	21
4. 目的	21
5. アジェンダ	22
6. 概要	22
7. 次回までの課題と期限	22
8. テイクオフミーティング開催	22
4 iCD活用ワークショップの結果(企業別に掲載)	23
株式会社ウチダ人材開発センタ	23
■iCD取り組み効果	23
■今後のiCD活用、導入のスケジュールや体制などの計画	24
■iCD活用ワークショップに参加した感想	24
■今後、iCD活用ワークショップに参加する企業へのアドバイス	25
株式会社TKC	26
■iCD取り組み効果	26
■今後のiCD活用、導入のスケジュールや体制などの計画	27
■iCD活用ワークショップに参加した感想	27
■今後、iCD活用ワークショップに参加する企業へのアドバイス	27
5 iCD活用ワークショップの評価と今後の取り組み	28
ワークショップの総合評価	28
今後の取り組み	28

1

i コンピテンシ ディクショナリ活用ワークショップ実施の背景と目的



i コンピテンシ ディクショナリ活用ワークショップ実施の背景

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会（以下、CSAJ）はコンピュータソフトウェア製品に係わる企業、約640社が会員となっており、各種委員会・研究会活動も活発に行っている。iCD研究会は、約20ある委員会・研究会の一つである人材委員会に属し、2014年7月に独立行政法人情報処理推進機構（以下、IPA）が発表したI コンピテンシ ディクショナリ（以下、iCD）の活用と普及活動を行っている。本報告のiCD活用ワークショップは、iCD研究会のiCD関連活動の一環として実施している。

なお、このワークショップは、IPAが共通キャリア・スキルフレームワーク（以下、CCSF）の追補版を発表した2012年から「CCSF活用ワークショップ」として2年、2014年からは「iCD活用ワークショップ」として5年、合計7回（7年連続）開催し、今回を含め27社が参加している。



iCD活用ワークショップの目的と期待効果

CSAJの会員企業は、ホストコンピュータからクライアントサーバ、WEBコンピューティング、クラウドコンピューティングとITシステムの中心が変わり、またAI、IoT、ビッグデータ活用などの新しい技術への対応が求められている現状を踏まえて、必要とされるIT人材像が変わってきているとの認識を持っている。また、従来からある個別企業からの受託開発より、今後は自社の製品やサービスを国内外に積極的に提供していくようなビジネスモデルを描く経営者も多い。

このような状況の中、新しいビジネスモデルの構築とそのモデルに合わせた人材育成の仕組みを構築することが急務となっており、その両方を実現できるツールとして、CCSFの追補版、更にはその追補版を拡張・整備したiCDに期待する声は多い。

このワークショップでは、各社が目指す固有のビジネスモデルを整理し、それを実現するために必要なタスク（仕事・業務）と役割（人材像）を定義することを目的としている。

2

iCD活用ワークショップの実施概要



ワークショップのスケジュール

ワークショップは第1回と第2回を合宿形式で実施し、その後2週間に1回程度のペースで、全6回（各回3時間30分）実施した。

但し、ワークショップ開始前に事前説明会を、ワークショップ終了後にテイクオフ・ミーティングを実施した。

- ① 事前説明会 : 2018年06月29日(金) 15:00~17:00
- ② 第1回、第2回ワークショップ(合宿)
: 2018年07月06日(金) 14:00 ~ 7日(土) 12:00まで
- ③ 第3回ワークショップ : 2018年07月20日(金) 14:00~17:30
- ④ 第4回ワークショップ : 2018年08月09日(木) 14:00~17:30
- ⑤ 第5回ワークショップ : 2018年08月31日(金) 14:00~17:30
- ⑥ 第6回ワークショップ : 2018年09月21日(木) 14:00~17:30
- ⑦ テイクオフ・ミーティング : 2018年10月25日(木)他 各社個別対応(約1時間)



ワークショップの概要

ワークショップでは、各回、講師から作業する内容の説明を受け、参加企業が各社で実際に作業を行う。ワークショップの時間内で完成しない場合は、決められた期日までに成果物を完成させて提出する宿題方式を採っている。

日程	回数	テーマ	発表日
6/29(金)	事前	ワークショップの進め方	—
7/6(金)	第1回	iCDの理解と自社要件定義	7/20(金)
7/7(土)	第2回	自社タスク定義	
7/20(金)	第3回	役割の概要とレベル設定	8/9(木)
8/9(木)	第4回	タスクの評価項目の構築	8/31(金)
8/31(金)	第5回	タスク診断条件設定(テストアセスメント)	9/21(金)
9/21(金)	第6回	自社人材育成基盤の確定	—
10/25(木)	テイクオフ	これからの運用	—

各回詳細は「3 ワorkshopの実施内容」に掲載するが、概要は次のとおりである。

1 事前説明会

講師からワークショップの進め方を説明し、参加企業に理解を求めた。また、このワークショップの目的である次の5点を確認した。

- それぞれの企業が、自社のあるべき姿を明確にする。
- あるべき姿の実現に向け、必要な機能・仕事(タスク)を具体的に明らかにする。
- 必要な機能・仕事(タスク)を担う役割を定義し、遂行レベルを設定する。
- 必要な機能・仕事(タスク)の遂行のために必要な評価項目を構築する。

- 現状の分析と、診断実施結果の分析を行い、診断レベルの再設定を行い、自社の人材育成基盤を完成させる。

ワークショップへの参加に於いて、「最後までやり遂げること」「複数職種の方が参加すること」が重要で、そのために1社から5人まで参加できる体制を採った。尚、企業の内部情報を発表する場面もあるため、機密保持に係わる誓約書の提出を必須としている。

2 第1回「iCDの理解と自社要件定義」

参加企業の自己紹介を行い各社の参加動機を共有することから開始する。

まずiCDの概要と仕組みについて講義を行い、IT人材育成の目標となる企業としての「あるべき姿（ToBe）」についての検討するワークショップを開始した。

「あるべき姿」は、ロジックツリー（目的－手段）を使用してモデル化をし、成果物『自社要件定義』シートに整理する。『自社要件定義』の作成には「マインドマップ」というフリーソフトを利用した。

成果物『要求分析シート』は、今回のワークショップの前までに完成・提出する。

3 第2回「自社タスク定義」

第1回ワークショップの成果物である『自社要件定義』をもとに、各企業から自社の要件定義について発表し、講師講評を受ける。

続いて、iCDにおけるもっとも重要な要素である「タスク」モデルについて講義し、参加企業の理解を図る。この理解のもとに、各社の現在の組織（AsIs）、今後行うべきタスク（ToBe）までを視野に、組織とタスクのクロスリファレンス、すなわち『自社タスク定義』を検討するワークショップを行う。

尚、第1回と第2回の内容はワークショップ全体の根幹でもあり、かつ重要な部分であるため、合宿形式で連続した日程で実施している。

成果物『自社タスク定義』は、次回ワークショップの前までに完成・提出する。

4 第3回「役割の概要とレベル設定」

第2回ワークショップの成果物である『自社タスク定義』をもとに、各企業の自社タスクを発表し、講師講評を受ける。

続いてタスクを担う人材を「役割」とする考え方や、役割定義・役割レベル設定・役割とタスクのクロスリファレンスについて講義を受け、それぞれを定義するためのワークを行う。

- ・役割を『役割概要設定』シートで定義
- ・『役割・タスククロスリファレンスⅠ』シートに役割とタスクの関係を整理
- ・『役割レベル設定』シートに業務遂行力の到達度合いを定義

成果物『役割・タスククロスリファレンスⅠ』と『役割概要設定』『役割レベル設定』は、次回ワークショップの前までに完成・提出する。

5 第4回「タスクの評価項目の構築」

第3回ワークショップの成果物である『役割・タスククロスリファレンスⅠ』と『役割概要設定』、『役割レベル設定』を発表し、講師講評を受ける。

続いて自社タスクの評価項目の適切性を精査し、『役割・タスククロスリファレンスⅡ』シートに整理する。また、パイロットレコーディングの進め方の説明を受け候補者の選定を開始する。本候補者の役割とレベルについて『現状分析』シートで策定する。

次回ワークショップの前までに成果物『役割・タスククロスリファレンスⅡ』『現状分析』を、完成・提出し、パイロット・レコーダーを確定する。

6 第5回「タスク診断条件設定(テストアセスメント)」

第4回ワークショップの成果物である『役割・タスククロスリファレンスⅡ』『現状分析』について発表し、講師講評を受ける。

続いて、IPA開発「タスク診断ツール」の操作方法について説明を受け、企業ごとに「タスク設定」「タスクの重み付け」、「サブタスクの比重」、「役割レベル」などの定義（チューニング）を開始した。

次回のワークショップの前までに、タスク診断ツールを使用して、パイロットレコーディングを実施し、『現状分析結果』シートにまとめ、診断を受けたパイロット・レコーダーのアンケート結果と共に次回ワークショップの前までに完成・提出する。

7 第6回「自社人材育成基盤の確定」

第5回ワークショップの成果物『現状分析結果』、アンケートであるパイロットレコーディングを発表し、講師講評を受ける。

続いてワークショップ後の各社での導入・運用についての考え方を説明と事例紹介を受ける。

また、テイクオフ・ミーティングまでに行うことについて説明を受ける。テイクオフ・ミーティングでは、各社の今後の導入スケジュールの立案をはじめ課題などについて相談することが可能な旨講師から説明を行う。

実施が可能であれば、各社導入対象としている全員に対し、タスク診断を実施、テイクオフ・ミーティングで結果を報告することを薦める。

8 テイクオフ・ミーティング

第6回終了後、約1か月間を今後の導入スケジュールの立案と全員診断期間とし、その結果をもとに1社1時間程度で、個社へのフィードバックを行った。

今回、全員診断を実施した企業はなかったが、各企業とも導入スケジュール表を作成しており、今後の導入・運用に期待を抱かせるものとなった。質問対応を含め、各企業の状況に応じたアドバイスを行った。

参加企業

① 株式会社TKC

住所	栃木県宇都宮市鶴田町1758番地
設立	1966年（昭和41年）10月22日
資本金	57億円
従業員数	2,225名（2018年9月30日現在）
業務内容	<p>創業以来、会計事務所と地方公共団体の2つの分野に専門特化した情報サービスを展開している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. TKC統合情報センター（全国9カ所）によるコンピューター・サービス 2. TKCインターネット・サービスセンター（TISC）によるコンピューター・サービス 3. パソコンまたはクライアント・サーバーに搭載するソフトウェアの開発提供 4. 当社の情報サービスの利用に伴うシステム機器の販売 5. 専門スタッフによるシステム・コンサルティング・サービス 6. ユーザーに対する総合的な教育研修サービス

② 株式会社ウチダ人材開発センター

住所	東京都墨田区横綱1丁目6番1号 国際ファッションセンタービル7F
設立	1996年（平成8年）4月12日
資本金	2億円
従業員数	44名（2019年3月末現在）
業務内容	<p>教育事業者として以下の事業及び人材派遣を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業向け人材育成サービス ・多くの企業様にご利用いただいている新入社員からマネジメント層の研修まで、IT人材の成長段階にあわせたメニューを提供 ・学校向け教育支援サービス ・今後の教育現場を見据えながら、人の供給、学生の育成支援から学習システムの構築まで、学校経営や改革に沿ったご提案で、「いい学校づくり、いい教育づくり、いい授業づくり」を



実施体制

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会（CSAJ）

人材委員会/iCD研究会

第7期iCD活用ワークショップ

- 参加企業（2社）
 - 株式会社TKC
 - 株式会社ウチダ人材開発センタ
- メイン講師（1名）
 - 一般社団法人iCD協会・一般社団法人コンピュータソフトウェア協会(1名)
- サブ講師（1名）
 - 株式会社IPイノベーションズ(1名)
- 事務局
CSAJ 業務課
- 後援
一般社団法人iCD協会（iCDA）

3

ワークショップの実施内容

▶▶▶ ワークショップ 事前説明会 開催記録

▶▶▶ 1. 開催日時

2018年6月29日（木）15:00～17:30

▶▶▶ 2. 場所

CSAJ

▶▶▶ 3. 参加者 5名（講師・運営陣 5名を除く）

	氏名	所属
講師	木田 徳彦	株式会社インフォテック・サブ
オブザーバー	遠藤 修	一般社団法人 iCD 協会（iCDA）
	井上 淳	株式会社 IP イノベーションズ
出席者 (5名)	小林 誠治	株式会社 T K C
	高橋 繁男	株式会社 T K C
	山川 宏樹	株式会社ウチダ人材開発センタ
	山口 典子	株式会社ウチダ人材開発センタ
	日暮 薫	株式会社ウチダ人材開発センタ
事務局	大戸 夕子	一般社団法人 iCD 協会（iCDA）
	山田 篤子	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会（CSAJ）

▶▶▶ 4. 目的

- iCDを理解する
- 自社要件定義の実施
- 自社タスク定義の実施

5. アジェンダ

本日のアジェンダ	
1. 主催者ご紹介	15:00~15:05
2. 開会挨拶	15:05~15:10
3. 参加企業ご紹介	15:10~15:35
4. iCDとは	15:35~16:20
(休憩)	16:20~16:30
5. iCD活用の勘所	16:30~17:00
6. WS運営方法	17:00~17:25
質疑応答	17:25~17:30

6. 概要

事前説明会はキックオフとして実施された。

メンバー企業の代表者による各社の参加目的を共有すると共に、ワークショップの内容、最終的なゴール（目的）の確認などを行った。

また、ワークショップへ参加するにあたっては、「最後までやり遂げること」が大切であり、そのためにも各社複数名、現場のメンバーの参加が寄り効果的であることを伝えた。

尚、企業の内部情報を発表する場面もあるため、機密保持に係わる誓約書の提出を必須としている。

7. 次回までの課題と期限

- 機密保持誓約書の提出（事前説明会当日中）
- サイボウズ Live 利用登録申込（提出期限：7月2日）メール返信
- 事前質問票提出（提出期限：7月4日）サイボウズ Live 共有フォルダへアップロード

8. 次回までの準備

- ワークショップ用 PC 準備(研修会場でのネットワーク接続か USB 使用が可能なもの)
 - FreeMind セットアップ
 - 共有フォルダ<第1回&第2回 WS (配布物)>より成果物ファイルダウンロード
 - 次回ワーク用企業理念、中長期計画、業務分掌、経営者へのヒアリング結果等資料収集

9. 次回開催

- 開催日時：7月6日（金）14:00~7月7日（土）12:00 合宿
- 場所：多摩永山情報教育センター

▶▶▶ 第1、2回ワークショップ 開催記録

▶▶▶ 1. 開催日時

2018年7月6日（金） 14:00～20:30
2018年7月7日（土） 9:00～12:00

▶▶▶ 2. 場所

多摩永山情報教育センター

▶▶▶ 3. 参加者 16名（講師・運営陣 5名を除く）

	氏名	所属
講師	木田 徳彦	株式会社インフォテック・サブ
オブザーバー	土田 修	一般社団法人 iCD 協会（iCDA）
	井上 淳	株式会社 IP イノベーションズ
出席者 (11名)	谷口 玄太郎	株式会社 TKC
	小林 誠治	株式会社 TKC
	高橋 繁男	株式会社 TKC
	久津美 英之	株式会社 TKC
	大門 芳久	株式会社 TKC
	山崎 利典	株式会社 TKC
	日下田 健児	株式会社 TKC
	山川 宏樹	株式会社ウチダ人材開発センタ
	細谷 浩太郎	株式会社ウチダ人材開発センタ
	土肥 茂雄	株式会社ウチダ人材開発センタ
	上田 あゆ美	株式会社ウチダ人材開発センタ
事務局	大戸 夕子	一般社団法人 iCD 協会（iCDA）
	山田 篤子	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会（CSAJ）

▶▶▶ 4. 目的

- iCDの理解
- 自社要件定義の実施
- 自社タスク定義の実施

5. アジェンダ 1日目、2日目

1日目アジェンダ		2日目アジェンダ	
第1回第1部		(朝食 7:00~8:00)	
1. スケジュールの確認	14:00~14:05	※8:55までに研修会場に荷物を持って集合してください	
2. 参加者自己紹介	14:05~14:45	第2回 (9:00~12:00)	
3. iCDの説明	14:45~15:15	1. スケジュールの確認	9:00~9:05
(休憩)		2. タスクディクショナリ解説	9:05~10:00
4. マインドマップの活用と要求分析について	15:25~16:00	(休憩)	
5. ワーク：自社要件定義	16:00~18:00	3. ワーク：自社タスク定義	10:10~11:40
(夕食)	18:00~19:00	4. まとめ	11:40~12:00
第1回第2部 (19:00~)		事務連絡	
1. 自社要件定義のプレゼンテーション	19:00~20:30	(解散 12:00)	
懇親会 (20:30~22:00)			
事務連絡			

6. 概要

参加企業の自己紹介の後、講師から改めてiCDについて説明を受け、その仕組みを理解した。その後、人材育成の目標として、各企業の「あるべき姿」(ToBe)についての検討を開始した。「あるべき姿」は、ロジックツリー(目的-手段)を使用してモデル化をし、成果物『要求分析シート』に記載する。『要求分析シート』の作成には「マインドマップ」というフリーソフトを利用した。

成果物『要求分析シート』は、次回のワークショップの前までに完成することとした。

自社タスク定義の策定のため、iCDタスクディクショナリの小分類までを表示した資料を配布し、まず全タスクについて講師から説明を行った。その上で自社の各部署で行っているタスクを中分類レベルで洗い出すワークを実施した。この完成も次回までの課題とした。

7. 次回までの課題と期限

- 自社要件定義
- 自社タスク定義の完成版
- 提出期限：7月17日(火) 10:00
- 提出方法：サイボウズ Live 共有フォルダ ⑥ 第1回&第2回WS(提出)

8. 次回までの準備

- 自社成果物.xlsx をダウンロードして各社作業用PCに保存
- ダウンロード場所：サイボウズ共有フォルダ 「⑦ 第3回 (各社配布物)」

9. 次回開催

- 開催日：7月20日(金)
- 時間：14:00~17:30
- 場所：CSAJ

▶▶▶ 第3回ワークショップ 開催記録

▶▶▶ 1. 開催日時

2018年7月20日（金） 14:00～17:30

▶▶▶ 2. 場所

CSAJ

▶▶▶ 3. 参加者 18名（講師・運営陣 7名を除く）

	氏名	所属
講師	木田 徳彦	株式会社インフォテック・サーブ
オブザーバー	土田 修	一般社団法人 iCD 協会（iCDA）
	井上 淳	株式会社 IP イノベーションズ
	橋爪 修	株式会社インフォテック・サーブ
出席者 (11名)	谷口 玄太郎	株式会社 TKC
	小林 誠治	株式会社 TKC
	高橋 繁男	株式会社 TKC
	久津美 英之	株式会社 TKC
	大門 芳久	株式会社 TKC
	山崎 利典	株式会社 TKC
	日下田 健児	株式会社 TKC
	山川 宏樹	株式会社ウチダ人材開発センタ
	細谷 浩太郎	株式会社ウチダ人材開発センタ
	日暮 薫	株式会社ウチダ人材開発センタ
	上田 あゆ美	株式会社ウチダ人材開発センタ
事務局	大戸 夕子	一般社団法人 iCD 協会（iCDA）
	志村 智子	株式会社インフォテック・サーブ
	山田 篤子	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会（CSAJ）

▶▶▶ 4. 目的

- ・ 自社業務遂行に必要な役割とタスクを明らかにする
 - 要件定義・タスク定義の振り返り
 - 役割の整理
 - 役割の果たすべきタスクの洗い出し

5. アジェンダ

第3回アジェンダ		CSAJ
1. 本日のスケジュールとWS進め方の確認	(10分)	
2. 各社要件定義・自社タスク定義のプレゼンテーション	(90分)	
・ 各社発表&質疑応答	(90分)	
(休憩)	(10分)	
3. ワークショップの進め方		
・ 役割・タスククロスリファレンスⅠについて		
・ 役割レベル設定について		
・ 役割概要設定について	(30分)	
4. ワークショップ実施	(65分)	
5. 事務連絡	(5分)	

All Rights Reserved. Copyright © CSAJ 2017

6. 概要

第2回ワークショップの成果物である『組織機能分析表』と『自社タスク定義』をもとに、各企業の自社タスクを発表し、質疑応答を行うと共に以下を受けた。

上記ワークによって組織から考えて自社に必要と判断したタスクのみが抽出されている。

次にタスクを「役割」から捉え、役割から見たタスクを『③役割・タスククロスリファレンスⅠ』に定義する。また「役割」概要を『⑤役割概要設定シート』に記載、整理する。役割に対してのレベル設定はサンプルを参照することとした。

7. 次回までの課題と期限

- 各社成果物 xls ファイル
 - 役割・タスク クロスリファレンスⅠ
 - 役割概要設定
 - 役割レベル設定
- 提出期限：7月31日（火）17:00
- 提出方法：サイボウズ Live 共有フォルダ ⑨ 第3回 WS(提出)

8. 次回までの準備

- 自社成果物.xlsx をダウンロードして各社作業用 PC に保存
- ダウンロード場所：サイボウズ共有フォルダ 「⑫ 第4回(各社配布物)」

9. 次回開催

- 開催日：8月9日（木）
- 時間：14:00～17:30
- 場所：CSAJ

▶▶▶ 第4回ワークショップ 開催記録

▶▶▶ 1. 開催日時

2018年8月9日（木） 14:00～17:30

▶▶▶ 2. 場所

CSAJ

▶▶▶ 3. 参加者 19名（講師・運営陣 8名を除く）

	氏名	所属
講師	木田 徳彦	株式会社インフォテック・サーブ
オブザーバー	土田 修	一般社団法人 iCD 協会 (iCDA)
	井上 淳	株式会社 IP イノベーションズ
	橋爪 修	株式会社インフォテック・サーブ
出席者 (11名)	谷口 玄太郎	株式会社 TKC
	小林 誠治	株式会社 TKC
	高橋 繁男	株式会社 TKC
	久津美 英之	株式会社 TKC
	大門 芳久	株式会社 TKC
	山崎 利典	株式会社 TKC
	山川 宏樹	株式会社ウチダ人材開発センタ
	細谷 浩太郎	株式会社ウチダ人材開発センタ
	山口 典子	株式会社ウチダ人材開発センタ
	日暮 薫	株式会社ウチダ人材開発センタ
	上田 あゆ美	株式会社ウチダ人材開発センタ
事務局	志村 智子	株式会社インフォテック・サーブ
	石神 貴子	一般社団法人 iCD 協会 (iCDA)
	山田 篤子	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (CSAJ)
	遠藤 耕太	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (CSAJ)

▶▶▶ 4. 目的

- ・タスク診断項目を構築する
 - タスククロスリファレンス I ・役割概要設定の振り返り
 - 役割・タスククロスリファレンスIIの完成
 - タスクレコーディングとレベル条件の設定
 - パイロットレコーディングの準備

5. アジェンダ

第4回アジェンダ		CSAJ
1. 本日のスケジュールとWS進め方の確認	(10分)	
- 本日の成果物を確認		
2. 各社役割関連定義のプレゼン	(90分)	
1. 役割・タスククロスリファレンス I		
2. 役割概要設定		
休憩	(10分)	
3. ワークショップの進め方	(30分)	
1. 役割・タスク クロスリファレンスIIについて		
2. タスクレコーディングとレベル条件設定について		
3. パイロットレコーダーの選定について		
4. パイロットレコーディングに向けて		
4. ワークショップ	(60分)	
事務連絡	(10分)	

6. 概要

第3回ワークショップの成果物である『役割・タスククロスリファレンスⅠ』と『役割概要設定ワークシート』、『役割レベル設定』をもとに、各企業のタスクと役割の関係を発表した。

その後、タスク診断に使用する「評価項目」を理解し、自社タスクの評価項目の検討を開始した。各社のタスクの評価項目は『役割・タスククロスリファレンスⅡ』に整理する。続いて、タスクのレベルを評価する評価基準を理解し、レベル条件の検討を開始した。成果物『役割・タスククロスリファレンスⅡ』は、次回ワークショップの前までに完成させた。

また、第5回以降に実施するタスク診断のパイロット・レコーダー（診断対象者）を選定し、レベル想定を行った。

7. 次回までの課題と期限

- 各社成果物 xls ファイル
 - 役割・タスク クロスリファレンスⅡの完成
 - 現状分析（パイロット・レコーダーのレベル想定）
- 提出期限：8月20日（月）17:00
- 提出方法：サイボウズLive 共有フォルダ ⑫ 第4回WS（提出）

8. 次回までの準備

- 自社成果物.xlsx をダウンロードして各社作業用PCに保存
- ダウンロード場所：サイボウズ共有フォルダ 「⑬ 第5回WS（各社配布物）」
- パイロット・レコーダーの協力承諾

9. 次回開催

- 開催日：8月31日（金）
- 時間：14:00～17:30
- 場所：CSAJ

▶▶▶ 第5回ワークショップ 開催記録

▶▶▶ 1. 開催日時

2018年8月31日（金） 14:00～17:30

▶▶▶ 2. 場所

CSAJ

▶▶▶ 3. 参加者 19名（講師・運営陣 7名を除く）

	氏名	所属
講師	木田 徳彦	株式会社インフォテック・サーブ
オブザーバー	土田 修	一般社団法人 iCD 協会 (iCDA)
	井上 淳	株式会社 IP イノベーションズ
	橋爪 修	株式会社インフォテック・サーブ
出席者 (12名)	谷口 玄太郎	株式会社 TKC
	小林 誠治	株式会社 TKC
	高橋 繁男	株式会社 TKC
	久津美 英之	株式会社 TKC
	大門 芳久	株式会社 TKC
	山崎 利典	株式会社 TKC
	日下部 健児	株式会社 TKC
	山川 宏樹	株式会社ウチダ人材開発センタ
	細谷 浩太郎	株式会社ウチダ人材開発センタ
	山口 典子	株式会社ウチダ人材開発センタ
	日暮 薫	株式会社ウチダ人材開発センタ
土肥 茂雄	株式会社ウチダ人材開発センタ	
事務局	志村 智子	株式会社インフォテック・サーブ
	山田 篤子	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (CSAJ)
	遠藤 耕太	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 (CSAJ)

▶▶▶ 4. 目的

- ・タスク診断項目を構築する
 - 役割・タスククロスリファレンスII、レベル条件の発表と確認
 - パイロット・レコーダーの選定と診断前想定
 - パイロットレコーディング実施目的の確認
 - 活用システム操作方法の確認

5. アジェンダ

第5回アジェンダ		CSAJ
1. 本日スケジュールとWS進め方の確認	(10分)	
- 本日の成果物を確認		
2. 各社役割関連定義のプレゼン	(60分)	
1. 役割・タスククロスリファレンスについて		
2. パイロットレコーダー（診断対象者）の選定について		
休憩	(10分)	
3. iCD活用システムの説明とワークショップ	(100分)	
■ パイロットレコーディングについて		
4. 今後の進め方について	(20分)	
事務連絡	(10分)	

6. 概要

第4回ワークショップの成果物である『役割・タスククロスリファレンスⅡ』をもとに、各企業のタスクと役割及び、選定したパイロット・レコーダーとその事前分析について発表、質疑応答を行った。

今回はIPA担当者から「活用システム」の操作方法について説明を受けた。「タスクの重み付け」、「サブタスクの比重」、「役割レベル」など個社単位での設定方法を理解した。

次回のワークショップまでに、活用システムを使用して、パイロットレコーディングを実施し、その結果とアンケートを提出する。

ひとつの役割でレベルを上げていくという考え方と、出世魚のように異なる役割を身に付けていくという考え方の両方が従来からあるが、1本道ではなくいろいろな分岐を設けて選択肢を複数持てるようにキャリアパスを考えるのが近頃の考え方である。組織の文化によっても異なるのでどれが良いということではない。

7. 次回までの課題と期限

- パイロットレコーディングの結果
- パイロットタスクレコーディング アンケート回収
 - ZIP形式等で圧縮ファイルとする
- 提出期限：9月18日（金）17:00
- 提出方法：サイボウズ Live 共有フォルダ ⑮ 第5回WS（提出）

8. 次回までの準備

- iCDワークショップ全体資料持参する

9. 次回開催

- 開催日：9月21日（金）
- 時間：14:00～17:30
- 場所：CSAJ

▶▶▶ 第6回ワークショップ 開催記録

▶▶▶ 1. 開催日時

2018年9月21日（金）14:00～17:30

▶▶▶ 2. 場所

IPA 独立行政法人 情報処理推進機構

▶▶▶ 3. 参加者 16名（講師・運営陣 4名を除く）

	氏名	所属
講師	木田 徳彦	株式会社インフォテック・サーブ
オブザーバー	土田 修	一般社団法人 iCD 協会（iCDA）
	井上 淳	株式会社 IP イノベーションズ
出席者 (12名)	谷口 玄太郎	株式会社 TKC
	小林 誠治	株式会社 TKC
	高橋 繁男	株式会社 TKC
	久津美 英之	株式会社 TKC
	大門 芳久	株式会社 TKC
	山崎 利典	株式会社 TKC
	日下部 健児	株式会社 TKC
	富田 伸一郎	株式会社ウチダ人材開発センタ
	山川 宏樹	株式会社ウチダ人材開発センタ
	細谷 浩太郎	株式会社ウチダ人材開発センタ
	土肥 茂雄	株式会社ウチダ人材開発センタ
	上田 あゆ美	株式会社ウチダ人材開発センタ
事務局	山田 篤子	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会（CSAJ）

▶▶▶ 4. 目的

- 自社の人材育成基盤を確定する
 - パイロットレコーディング実施結果分析と講評
 - 運用のポイント
- WS終了後のサポートについて
 - テイクオフミーティングの実施
 - 情報交換のスキーム
 - 活用カルテ兼報告書の記載と報告

5. アジェンダ

第6回アジェンダ		CSAJ
1. 本日スケジュールとWS進め方の確認	(10分)	
- 本日の成果物を確認		
2. 各社パイロットレコーディング結果のプレゼン	(80分)	
休憩	(10分)	
3. 運用のポイントについて	(80分)	
■ 構築した仕組みの運用とポイント (全体資料)		
■ 人事評価との連携 (講師による実事例紹介)		
4. 今後の進め方について	(25分)	
■ テイクオフ・ミーティングについて		
■ 報告書と活用カルテについて		

All Rights Reserved. Copyright © IPA/CSAJ 2017

6. 概要

パイロットレコーディングの結果を想定分析と比較し、その相違の傾向や原因、今後の対応についての考察結果を発表。質疑を行い診断実施に向け、各社最終の課題について講師の講評を行った。

このワークショップ後の運用については、IPA講師から重要なポイントについての説明を受けた。また実例を通じて理解を促進した。

WSは今回が最終回となり、第1回の診断実施に向けて各社導入の最終段階に入る。これからの活動の報告や質問についてはテイクオフ・ミーティングで各社ごとの面談時間をとり相談・報告を行うこととする。尚、WS終了後もコミュニティの参加など、情報交換の機会の案内を行った。

7. 次回までの課題と期限

- 活用カルテ兼報告書の提出
- 提出期限：10月19日（金）17:00
- 提出方法：サイボウズ Live 共有フォルダ ⑳ 活用カルテ兼報告書

8. テイクオフミーティング開催

- 開催日：10月25日（木）15:00～16:00
- 場所： 株式会社 TKC
- 開催日：11月29日（木）16:00～17:00
- 場所： 株式会社ウチダ人材開発センタ

4

iCD活用ワークショップの結果(企業別に掲載)

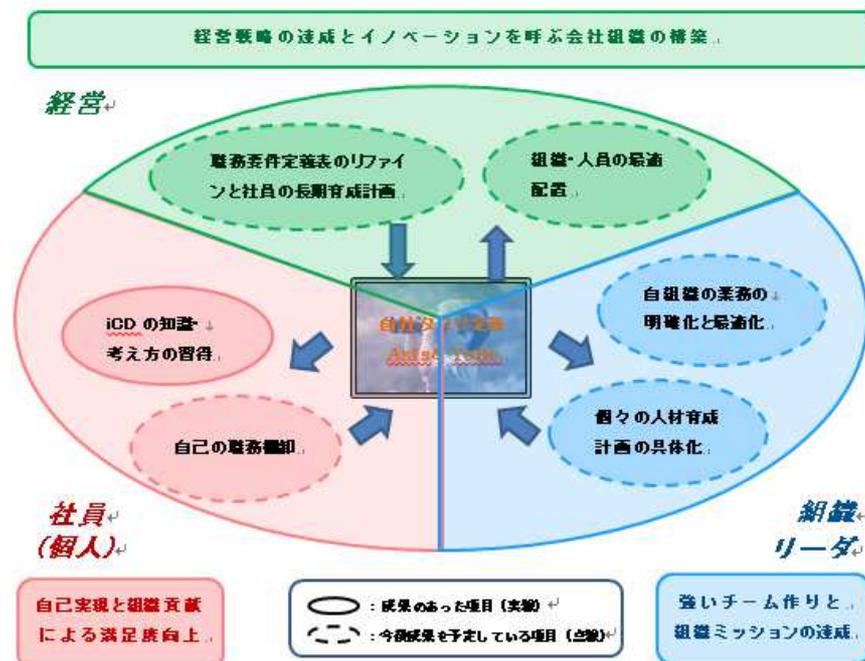


株式会社ウチダ人材開発センタ



■iCD取り組み効果

- ▶ 1. iCD活用の具体的な効果(実績)と、今後予定している効果(目標)をお聞かせください。



効果のあった項目	効果内容
iCDの知識・考え方の習得	ワークショップの活動を通じて、iCDの基礎知識と基本的な考え方・使い方を習得できた。
効果を予定している項目	予定している効果内容(具体策なども記載)
職務要件定義表のリファインと社員の長期育成計画	<ul style="list-style-type: none"> 職務要件定義表のアップデート、作成 職務要件定義に基づく社員の育成パスの検討
組織・人員の最適配置	<ul style="list-style-type: none"> 雇人化した組織構成でなく、組織機能をベースにした組織/人員配置ができる準備をする
自組織の業務の明確化と最適化	<ul style="list-style-type: none"> 役割、タスクの検討を基本とした業務範囲の明確化 業務改善
個々の人材育成計画の具体化	<ul style="list-style-type: none"> 長期視野にたっとうえて、短期の人材育成プランをたてる
自己の職務範囲	<ul style="list-style-type: none"> 役割、タスクを基に自己の職務範囲やレベルを確認する

■今後のiCD活用、導入のスケジュールや体制などの計画

■今後の活動予定

- (1) ワークショップ活動報告
 - ・役員への報告会の実施
- (2) ワークショップ成果物の精度向上
 - ・タスク/役割の再検討
 - ・粒度や役割の見直し
- (3) 現場への展開
 - (3.1) 部門ごとの勉強会の実施
 - (3.2) メンバーのスキルサーベイ
 - (3.2.1) スキルサーベイの準備
 - (3.2.2) スキルサーベイの実施
 - (3.2.3) サーベイ結果の評価
- (4) 評価・運営体制の決定
 - (4.1) サーベイ結果の評価
 - (4.2) 検討課題の抽出
 - (4.3) 運営体制の決定
- (5) 運営
 - (5.1) 課題の解決

■実施体制

- (1) (2) プロジェクトメンバー（ワークショップメンバー）
- (3) (4) プロジェクトメンバーを核に、各部門で選出

■概略スケジュール

項目	～2019/1	～2019/7	～2020/1	～2020/7	～2021/1	～2021/7
1) ワークショップ活動報告	→					
2) 成果物精度向上		→				
3) 現場への展開				→		
4) 評価・運営体制の決定					→	
5) 運営						→

■iCD活用ワークショップに参加した感想

冒頭の全体像説明をうかがって、とても腑に落ちました。

iCDの存在意義、目的を聞き腹落ちしました。そのとき「これは社員の育成に使える」と強く感じています。続いての自社要件定義やその後の作業でも、常日頃の自分達の態度や、自身の業務の位置づけや必要性に向き合っていることが多くワークショップを通じて自身のビジョンが明確になっていく感覚をもちました。自分の仕事を他のメンバーに説明する機会も普段は無いので、説明し理解してもらえることもよかったです。

開始前はiCDの構築や設計が中心だと思っていましたが、単なるレクチャーではなく、また作ることを目的にしてしまうこともなく活用・運用の場面での想定されることも情報提供・指導いただき、肩の力を抜きながらセッションに取り組みました。iCDの様々な可能性に気づくことができたのも収穫でした。実施における障害なども合わせて教えていただき、現場での運用・導入のイメージができました。

一方で、このワークショップは聞いたり見たりしていましたが、実際に実施する大変さを実感しました。タスクを整理することで、「誰が何をしているか」「誰が何をすべきか」が明確になったので、それだけでも苦労した甲斐があったと思います。
(営業、インストラクタのみならず) 個々のキャリアパスにも今後活きたいと考えています。
(「スキルディクショナリ」の活用に関しても、もう少し知りたかったです)

ワークショップを通じて、iCDを活用した育成体系のプロセスを知ることができました。新たな事業展開、変化に対応した人材を育成にするにあたっては、お客様の多くも悩んでいらっしゃるのでは、iCDを活用することが(対象範囲を選んでも)有効であると感じました。
これから詳細を詰めて、運用のフェーズになっていきますが、どう社員を巻き込んでいくかが課題と感じています。



■ 今後、iCD活用ワークショップに参加する企業へのアドバイス

正直に言って、一筋縄ではいかないワークショップです。
「完璧」なものを目指そうとすると難しいので、まずは手を付けてできることを念頭においてスタートさせるのが良いと思います。
セッションのテーマによっては難しく考えすぎたり、現実を直視するあまりネガティブな気持ちになる場面があるかもしれません。

また、主体的・積極的に取り組んでいくのがコツです。複雑な課題であっても「やらされ」と思わずに、主体的・積極的に取り組んでいくことで議論が活発化するのです。
講師の方やiCD協会の方・サポートメンバーなど色々な方が親身に相談に乗っていただけるので、考えこまずに皆さまに気軽に相談していくことをお勧めします

ワークショップでの活動もたいへんですが、それよりも以降の活動の継続性、ブラッシュアップと運用での活用がより重要だと思いますし、また課題も多いでしょう。
なるべく多くの方を巻き込んで参加することで生きたものにしていくことが大切だと思います。

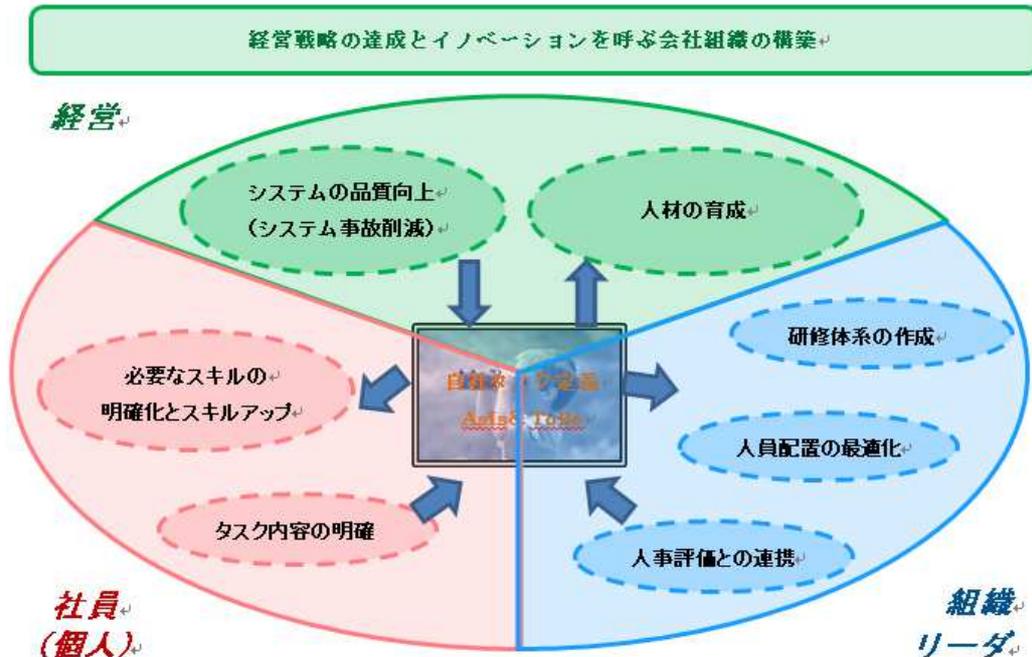
メンバーは部署横断的で選抜し、できれば経営陣も巻き込めればさらによいでしょう。

時間がかかるとは思いますが、貴重な機会だととらえて取り組んでください。

株式会社TKC

■iCD取り組み効果

- ▶ 1. iCD活用の具体的な効果(実績)と、今後予定している効果(目標)をお聞かせください。



効果を予定している項目	予定している効果内容(具体策なども記載)
システムの品質向上 (システム事故削減)	エンジニアのスキルアップにより出荷するシステムの品質を向上させる。(システム事故を削減する。)
人材の育成	当社のシステム開発に必要なスキルを明確化し、将来必要となる人材の育成につなげる。
研修体系の作成	当社のシステム開発に必要なスキルを習得するための研修体系を構築する。また、組織の現状に基づく研修を行い、弱点の克服・強みの強化につなげる。
人材育成と、 最適な人員配置の実現	各人のタスク遂行能力を見える化し、最適な人員配置を行うとともに、将来必要となる人材の育成につなげる。
人事評価との連携	人事評価と連携することでスキルアップが評価につながる。
必要なスキルの 明確化とスキルアップ	当社のシステム開発に必要なスキルが明確化され、スキルアップの指標となる。
タスク内容の明確化	これまで不明確だったタスク内容が明確になることで、自身の業務品質向上につながる。

■今後のiCD活用、導入のスケジュールや体制などの計画

1. スケジュール（案）

※詳細は別紙

2018年

- | | |
|---------|----------------------|
| 10月26日 | タスクディクショナリ第1.0版完成 |
| 10月29日 | 開発部門へのパイロットレコーディング開始 |
| ～11月16日 | |
| 12月 | 部分導入開始 |

2019年

- | | |
|----|------------------------------------------------|
| 4月 | タスクディクショナリの見直しと適用範囲の検討（以後、半年ごとに実施）
開発部門全体導入 |
|----|------------------------------------------------|

2. 導入までの体制

ワーキンググループメンバー

iCD活用ワークショップ参加メンバーで継続検討

(2) 活動内容

- ①ミーティング（11月末まで週次）
- ②タスク一覧等の継続検討（メール等で随時実施）

3. 導入後の体制

未定

■iCD活用ワークショップに参加した感想

- ・人材育成について他社の取り組みを聞くことができて良かった
- ・自社の業務について再確認することで、内容の定義や役割が不明確な業務を洗い出す機会となった
- ・人事評価にも使うことで社員のキャリア、モチベーションアップにつなげることができるということを理解した
- ・ウチダ人材開発センタ様の活発な議論の状況など自社の改善に向けて本気で取り組まれている姿は非常に刺激となった
- ・今回は2社ではありますが、他社のアプローチの違いやご意見は、当社の検討において参考になった
- ・iCD導入にむけて成功するためのポイント（6つの袋）については、自社の進め方について悩んでいた部分について整理がついた点があり参考になった
- ・WGの回数を重ねる度に自社導入に向けた難しさを実感してきたが、まずは、運用を始めないと先には進めない点についても理解することができた

■今後、iCD活用ワークショップに参加する企業へのアドバイス

- ・既存のタスク定義等がある場合は既存のタスクを基準にしたタスク定義とすることも早いタイミングで検討してもよいと思います。
- ・実際に業務を行っている部署にタスク内容を早めに確認をしてもらった方が進めやすいと思います。

5

iCD活用ワークショップの評価と今後の取り組み



ワークショップの総合評価

直前でのキャンセル等があり、第7期のワークショップは2社の参加に留まり、少し寂しい印象もあったが、参加いただいた2社とも熱い思いをもって参加いただき、最終的には充実したワークショップとなった。2社とも現業務での課題を意識し、明確な目的の下、社員のタスク遂行力及びスキルの向上、業務における各役割の明確化、人材育成カリキュラムの確立等に取り組んでいた。

TKC様はすでに自社で活用している社内スキル標準制度の変革と新しいフレームワークであるiCDの融合に苦慮しながらも、自社独自の活用方法に辿り着き、これからまさに運用を始めようとしている。

ウチダ人材開発様は教育事業者として、自社の業務整理と人材育成のみならず、自社の顧客にiCDを紹介するためのノウハウと知識を習得いただき、これからの活動が楽しみになっている。

本取り組みの推進には企業の経営層、現場のエンジニアと推進担当者のコミュニケーションが特に重要であると考えられる。そのため事前説明会等で経営層の理解と現場のエンジニアの参加を呼びかけ、1名だけの参加という事態にならないように強くお願いしている。今回は、各社とも業務上参加が難しい時もあったにも関わらず、毎回各社とも5名以上の方に参加いただいた。とくにTKC様は、宇都宮から毎回各部門のリーダーが参加いただいたのは、この後の実際の導入段階で大きな推進力となると思われる。

また、運営面では、IPAでの活動を引き継いだ一般社団法人iCD協会の方々にも参加いただき、積極的に体験談やアドバイスをいただいた。経験者からのアドバイスにより悩んでいた課題の解決への道筋がわかった、といった感想もあった。

最終的な成果はこれからとしても、参加いただいた2社とも、このワークショップを通して多くの気づきがあり、それを前向きに解決していこう姿勢は称賛に値する。2社とも素晴らしい成果を生み出されていた。



今後の取り組み

本ワークショップは概念から実作業まで、講義、ワークショップ、宿題提出、講師講評というフローで進め、最終的に個社での導入の仕組み「第1版」が完成した。これは大きな成果であるが、人材育成のフローの中でマイルストーンの一つである。ワークショップは、短期間のうちに人材育成のプロセスを一通りつかんでいただくことを目的としており、当然のことながら、3か月程度のワークショップ期間だけでは、経営層や現場との調整が十分に行えるはずもなく、“評価項目を再精査したい”、“自社の現場に合った質問項目に書き直したい”といった現場からの要望が出てくることも想定できる。各企業にとって、今まさに真の意味での人材育成のスタートラインに立ったところといえよう。ただ、テイクオフ・ミーティングで、各企業とも導入スケジュールを発表いただき、今後の導入・運用に期待を抱かせた。

また、iCD研究会としては、昨年設立されたiCD協会との連携も含め、団体の枠を超えたiCDユーザー企業同士の情報交換会等の開催にも、中心メンバーとして活動していきたい。過去のワークショップ参加企業の導入状況を聞くとともに、iCD活用企業同士の情報交換は何ものにも代えがたい貴重な経験になるはずである。来年度もiCD活用ワークショップ（第8期）の開催（東京・大阪）をはじめとしたiCDに関する活動も引き続き積極的に行っていきたいと考えている。

一般社団法人コンピュータソフトウェア協会
人材委員会/iCD研究会 主査 木田 徳彦

iCD活用ワークショップ実施報告書

2018年度第7期

2019年3月30日 第1版



Computer Software Association of Japan
一般社団法人コンピュータソフトウェア協会

〒107-0052
東京都港区赤坂1-3-6
赤坂グレースビル
TEL : 03-3560-8440
FAX : 03-3560-8441
<http://www.csaj.jp/>